

## 令和3年度 第2回さいたま市がん対策推進協議会 議事概要

◎ 日時

令和4年1月25日（火） 14時00分～15時20分

◎ 場所

Zoomによるオンライン会議

◎ 出席者

《委員》安藤委員、大竹委員、金子委員、窪地委員（会長）、小坂委員、  
小山委員、登坂委員、野田委員、平川委員、松田委員、松本委員、  
三塩委員、横田委員（五十音順）

《事務局》星野保健部長、西田保健所長、今野副理事 他

《傍聴人》非公開のため、なし

◎ 欠席者

遠藤委員、浜野委員

◎ 会議資料

- ・ 次第
- ・ さいたま市がん対策推進協議会委員名簿
- ・ 令和3年度第2回さいたま市がん対策推進協議会関係課職員名簿
- ・ さいたま市がん対策推進協議会規則
- ・ 資料1-1 令和3年度がん対策推進計画の進行管理スケジュール
- ・ 資料1-2 さいたま市がん対策推進計画・進行管理概要
- ・ 資料1-3 さいたま市がん対策推進計画目標指標 令和3年度「さいたま市健康づくり及び食育についての調査」の概況
- ・ 資料1-4 各団体取組シート
- ・ 資料2-1 がん教育出前講座の講師について
- ・ 資料2-2 がん教育出前講座実施要綱
- ・ 参考資料1 コロナ禍における受診控えが、がんの早期発見、早期治療に与えた影響について
- ・ 参考資料2 さいたま市若年がん患者ターミナルケア在宅療養生活支援事

業の周知について

・さいたま市若年がん患者ターミナルケア在宅療養生活支援事業のチラシ

・さいたま市若年がん患者ターミナルケアに係る在宅療養生活支援補助金交付要綱

- ・ **参考資料3** がん患者のアピアランスケアについて
- ・ 令和3年度さいたま市がん対策推進講演会チラシ

1 開会

2 挨拶

3 議事

(1) さいたま市がん対策推進計画の進行管理について

①がん対策推進計画の進行及び取組の実施状況  
事務局より資料に基づき説明。

《資料》

- ・資料 1-1 令和3年度がん対策推進計画の進行管理スケジュール
- ・資料 1-2 さいたま市がん対策推進計画・進行管理概要
- ・資料 1-3 さいたま市がん対策推進計画目標指標 令和3年度「さいたま市健康づくり及び食育についての調査」の概況
- ・資料 1-4 各団体取組シート

②がん教育出前講座の講師について  
事務局より資料に基づき説明。

講師としてがん教育出前講座事業に参画いただける方を広く募るため、今後展開すべき施策の内容について諮問。

《資料》

- ・資料 2-1 がん教育出前講座の講師について
- ・資料 2-2 がん教育出前講座実施要綱

<御意見・質疑>

会長：

事務局から説明のあったがん対策推進計画の進行管理や、がん教育出前講座の講師に参画いただける方を広く募るために今後展開すべき施策について、御意見伺いたい。

安藤委員：

出前講座の講師について、がん診療連携拠点病院だけでなく、埼玉県がん診療指定病院にも参画していただければ、講師を増やせるのではないかと。医療機関は現在、新型コロナウイルス感染症の対応のため余裕がない状態なので、講

師を派遣できる病院を増やした方がよい。

また、出前講座の大きな目的の一つとしては、がん検診の受診率向上に繋げることである。出前講座を行うことが、がん検診受診率向上にどのように繋がったかまで分析できると、成果の見える化ができるのではないか。

横田委員：

事務局の説明について、複数の施策を実施している点を評価する。若年がん患者ターミナルケア在宅療養支援事業については、現時点で4人の利用申請があり、第一歩としてしっかり踏み出せたことは素晴らしい。

がん検診受診率や「さいたま市健康づくり及び食育についての調査」の概況として提示された食等における課題は、施策を結果に繋げることが中々難しい。運動の指標が伸び悩む理由は、コロナの影響もあるのではないか。

大竹委員：

がん教育出前講座を実施した6校の具体名を教えてください。がん教育はがん対策だけでなく、自殺防止にも繋がるため強力な推進をお願いしたい。

事務局：

がん教育出前講座の実施校は、仲本小学校、和土小学校、大宮八幡中学校、八王子中学校、指扇中学校、芝川小学校の計6校である。

平川委員：

がん教育出前講座について、コロナ禍で学校の教育活動に制限がある中でも6校で実施できたことは喜ばしい。イベントとしての開催だけでなく、体育における保健分野の授業や特別活動の中で担任と連携しながら実施することも効果的ではないか。また、出前講座開催後に実施するアンケートの内容を学校側にも共有すると、指導の前後で配慮すべき子どもの情報を把握できると考える。

#### 4 意見交換

(1) コロナ禍における受診控えが、がんの早期発見、早期治療に与えた影響について

事務局より資料に基づき説明。

受診控えががんの早期発見、早期治療に影響を与えたと考えられるか、受診控えを防ぐにはどのような方策が有効と考えられるかなどについて御意見を伺いたい。

《資料》

- ・ **参考資料1** コロナ禍における受診控えが、がんの早期発見、早期治療に与えた影響について

<御意見・質疑>

会長：

受診控えががんの早期発見、早期治療に影響を与えたと考えられるか、資料に基づき、まずはさいたま市4医師会連絡協議会議長の登坂委員の意見を伺いたい。

登坂委員：

参考資料1を見ると、2016年から少しずつ院内がん登録数が上がってきていたところが2020年に下がっており、正にコロナの影響が出たと言える。市民の検診に対する理解はあると思うので、コロナ禍により何となく検診を控えた、病院によっては内視鏡検査をあまりできていないといったことが影響しているのではないか。2021年も秋には回復の兆しがあったが、ここにきて普通の医療機関でも受診控えが起きているので、2021年も、院内がん登録数は下がっていると思われる。残念ながらコロナの影響として見ざるを得ないのではないか。

一方、2020年5月頃までは全く検診がなされていなかったことを考慮すると現時点の状況は仕方ないとも言え、どちらかというところの程度で収まっていてよかったというぐらいの数値ではないか。

会長：

次に、早期治療という影響について、さいたま赤十字病院院長の安藤委員に意見を伺いたい。

安藤委員：

昨年9月頃に横浜市立大学から、進行した胃がんと大腸がんが増えて、早期がんが減少しているというデータが出されている。このような明確なデータは直ぐには出てこないが、データに表れてからでは遅いので、今から何らかの対策を立てないといけないのではないか。

参考資料1のグラフは一見あまり院内がん登録数が減っていないように見えるが、先日、対がん協会からがん診断のデータを受領したところ、全体の1割くらい診断数は減っているようだ。明らかに受療行動は変わっている。

診断数の減少をコロナの影響で一時的なものとして捉えるのも一つの考え方では

あるが、がんに限らず受診控えは起きており、患者数は減少した状態が続いている。コロナが収束してもあまり状況が変わらない可能性も考え、現状をどう変えていくかということを検討しなくてはならないのではないかと。

会長：

患者団体の Çava!(サヴァ)～さいたま BEC～の小山委員に御意見伺いたい。

小山委員：

乳がんの患者会でおしゃべり会を月1回行っているが、最近ではコロナ禍以前よりも、ステージが進んだ状態でがんが見つかる人が多い印象を受ける。周りの知人からも、今年は病院に行くことが怖いので、乳がん検診に行かなかったという声を聞き、コロナ禍の影響を受けていると感じる。もっと検診に行こうということ発信し、少しずつ改善できるとよい。

行政の取組は、多くが市民に届いていない。SNSなどを活用し表現を工夫して、市民に親しみやすい取組にしてほしい。

大竹委員：

がん検診を実施する事業所の負担軽減を含め、がん検診を無料で受けられるような体制を整えることが早期発見、早期治療に繋がるのではないかと。

事務局：

がん検診の無料化は財政等の課題があるため、御意見として受け止めさせていただく。

松本委員：

事業所が行う健康診断については集団健診になるため実施が難しく、昨年、一昨年はコロナ禍により実施時期をずらしている。労働基準監督署としては定期的な健診が難しい場合、時期をずらしてでも実施するよう指導を行った。

がん検診については、法律上、事業所は義務付けられていない。だが、一般健康診断は義務化されており、年齢が一定以上の方については、より詳細な健診が義務付けられている。何らかの異常が見つかった場合に、事業所側が労働者に対して再検査を受けさせることを徹底することが、がんだけでなく様々な病気の早期発見に繋がるのではないかと。

(2) さいたま市若年がん患者ターミナルケア在宅療養生活支援事業の周知について  
事務局より資料に基づき説明。

末期と診断された若年のがん患者の方に本事業を広く周知するため、今後展開すべき周知の方法等について、御意見を伺いたい。

《資料》

- ・ **参考資料 2** さいたま市若年がん患者ターミナルケア在宅療養生活支援事業の周知について
  - ・ さいたま市若年がん患者ターミナルケア在宅療養生活支援事業のチラシ
  - ・ さいたま市若年がん患者ターミナルケアに係る在宅療養生活支援補助金交付要綱

<御意見・質疑>

会長：

資料に基づき忌憚のない意見をお願いしたい。

安藤委員：

現時点の利用者数は、全体の患者数からすると少ないという印象を受けて現場の担当者に聞いたところ、対象者に該当する患者には全て、情報を提供しているとのこと。利用者がどこから情報を得て申請したのかなどを聞き取り、がん診療連携拠点病院にその情報をフィードバックしてくれると、対象の患者に上手く伝える方法を検討できる。

会長：

利用者数は想定どおりとのことだが、どの程度対象者がいると想定していたか、また安藤委員からの指摘の回答を事務局に伺いたい。

事務局：

1点目の対象者の想定件数は参考資料2の中ほどに示したとおり。利用者数も概ね想定どおりである。2点目の利用者からの情報収集及び活用方法は今後検討していきたい。

会長：

在宅療養ということから、埼玉県看護協会会長の松田委員からも御意見伺いたい。

松田委員：

本事業は素晴らしい取組であり、さいたま市の事業ではあるが、埼玉県看護

協会でも県内全体に、このような事業が始まっていると情報提供を行った。

対象者への周知については、令和4年度さいたま市がん対策推進講演会で取り上げてはどうか。在宅支援をテーマとして、本人の意向により最期の看取りを自宅で行うことも可能ということを経験として伝える中で、利用者の声や介護事業者の関りについて紹介する、という形でできるとよいのではと感じた。

登坂委員：

若いがん患者の在宅療養は、バックアップの病院との連携が必須であり、高齢者の在宅療養とは状況が異なってくる。バックアップの病院としっかりとした連携体制が取れるよう、この事業の中で訪問看護ステーションや主治医、病院との連絡方法なども検討に加えていただきたい。

金子委員：

在宅の訪問診療を20年程行っている中で、介護保険制度が出来る前は、在宅療養をする若年の末期がん患者の割合は多かった印象がある。患者本人も同じ世代の方と同じように過ごしたいという思いがあるため、なるべく外来に訪れる患者と同じレベルの医療を提供できるよう心がけていた。

三塩委員：

コロナ禍により、病院では面会が中々出来ないため、在宅で最期を看取るケースが増えている。若年がん患者の在宅療養においては、体力があるため訪問介護を必要とするのは短い期間になる。一方、訪問看護は末期の症状コントロールであったり、介護保険制度におけるケアマネージャーの代わりとなって適切なサービスの紹介を行ったりすることができる。訪問看護は費用もかかり利用を躊躇うこともあるため、訪問看護も補助対象とするようにすべきである。

### (3) がん患者のアピアランスケアについて

事務局より資料に基づき説明。

アピアランスケアに関しては、外見の変化による悩みの本質を理解した上で、脱毛部分を隠して生活する必要がある社会を実現していくことが重要であり、様々な原因で脱毛等に悩む方がその人らしい生活を送れるよう支援すべきと考える。取り組むべき支援の在り方について御意見を伺いたい。

《資料》

- ・ **参考資料3** がん患者のアピアランスケアについて

<御意見・質疑>

会長：

がん患者が困っていることについて手を差し伸べる活動について、医療用ウィッグに限らず忌憚のない意見をお願いしたい。

大竹委員：

がん患者の脱毛については、男性より女性の方が悩んでいると思われる。脱毛に悩む方がその人らしい生活ができる環境ができればよいと感じる。

小坂委員：

各委員が各々の立場でできる支援を行っていることを聞き、自分の持てる知識で様々な方に啓発していきたいと感じた。

野田委員：

アピアランスケアについて、薬局の現場から薬の有害事象についてサポートの必要性を感じている。女性を中心に、脱毛以外にも爪や皮膚等の影響について相談できずにいるうちに副作用が強くなり、デメリットを感じて薬を飲みたくないという気持ちに繋がってしまう現状がある。薬の有害事象について患者の方が柔軟に相談できるような取組が必要であり、薬局も窓口になるべきかと考える。

平川委員：

がん患者のアピアランスケアについて、大学でもウィッグとして寄付するために髪を伸ばす学生が複数名いる。取組を知る事で能動的に参加できる支援があることを学生から教えられた。若いうちからこのような支援を知る事が望ましい。

## 5 報告

### (1) 令和3年度がん対策推進講演会について

事務局より資料に沿って報告。

《資料》

- ・令和3年度さいたま市がん対策推進講演会チラシ

<御意見・質疑>

松田委員：

今年度のさいたま市がん対策推進講演会のオンライン開催という形式について、1ヶ月間、さいたま市のホームページにアクセスするだけで視聴できるという手軽さは、色々な方に見ていただける機会に繋がるのではないか。来年度も同様の形式で行ってみてはいかがか。

松本委員：

がん対策推進講演会をオンラインで実施することは、コロナ禍で人が集まることのできない中、重要だと感じる。今後は集合で行った講演会の内容を一定期間配信するなど、ハイブリッドの形式も検討し続けてほしい。

## 6 閉会